

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 佐 藤 鈴 子

本研究は、人工呼吸器を装着した配偶者の在宅介護を行う中高年女性の睡眠と疲労を明らかにする目的で、人工呼吸器装着在宅療養者の妻である介護者（介護者と呼ぶ）10名と介護はしていない同年齢の女性10名を対象に実生活における夜間睡眠ポリグラフィと主観的睡眠評価、疲労度、生活時間を調査し、介護者と非介護者の睡眠と疲労について以下の結果を得ている。

1. 介護者は非介護者に比べてケアのために夜間離床する頻度が高く、離床時間も長かった。介護者の睡眠パターンは、徐派睡眠(Stage3+4)が第2周期から第3周期にかけて急激に減少し、第3周期から第4周期にかけて減少割合は緩徐になり、第4周期では非介護者に比べて徐派睡眠が高い傾向にあることが示された。
2. 周波数解析では、第3周期で介護者は非介護者に比べて有意に1~2Hzの帯域が低く、12~13Hz、13~14Hzの帯域が高いことが示され、第3周期における介護者の徐派睡眠の減少が確認された。
3. 介護者は非介護者に比べて睡眠欲求は高いが、介護のための頻回の離床が影響して睡眠が浅くなっていることが睡眠段階の判定および周波数解析から示唆された。
4. 介護者は非介護者に比べ、生活時間のうち自由・休憩時間と食事時間が有意に短く、主観的睡眠評価が有意に低く、疲労の自覚症状訴え率が有意に高いことが示され、生理学的疲労測定のリッカー値では夜ではなく朝の疲労度が高い傾向が示された。
5. 介護者の睡眠パターンは、主観的睡眠評価の低さや疲労度の高さとの関係があることが示唆され、人工呼吸器装着在宅療養者の介護をする家族介護者の睡眠継続を保障する支援体制を整えることの重要性が示された。

以上、本論分は人工呼吸器装着在宅療養者の介護をする配偶者の睡眠パターンと疲労との関連性を示した。本研究は医療的依存度の高い在宅療養者の介護支援を考える上で、学術的および実証的な意義を持ち、学位の授与に値するものと考えられる。